



川崎市の地域特性を活かしたスマートシティモデル事業検討

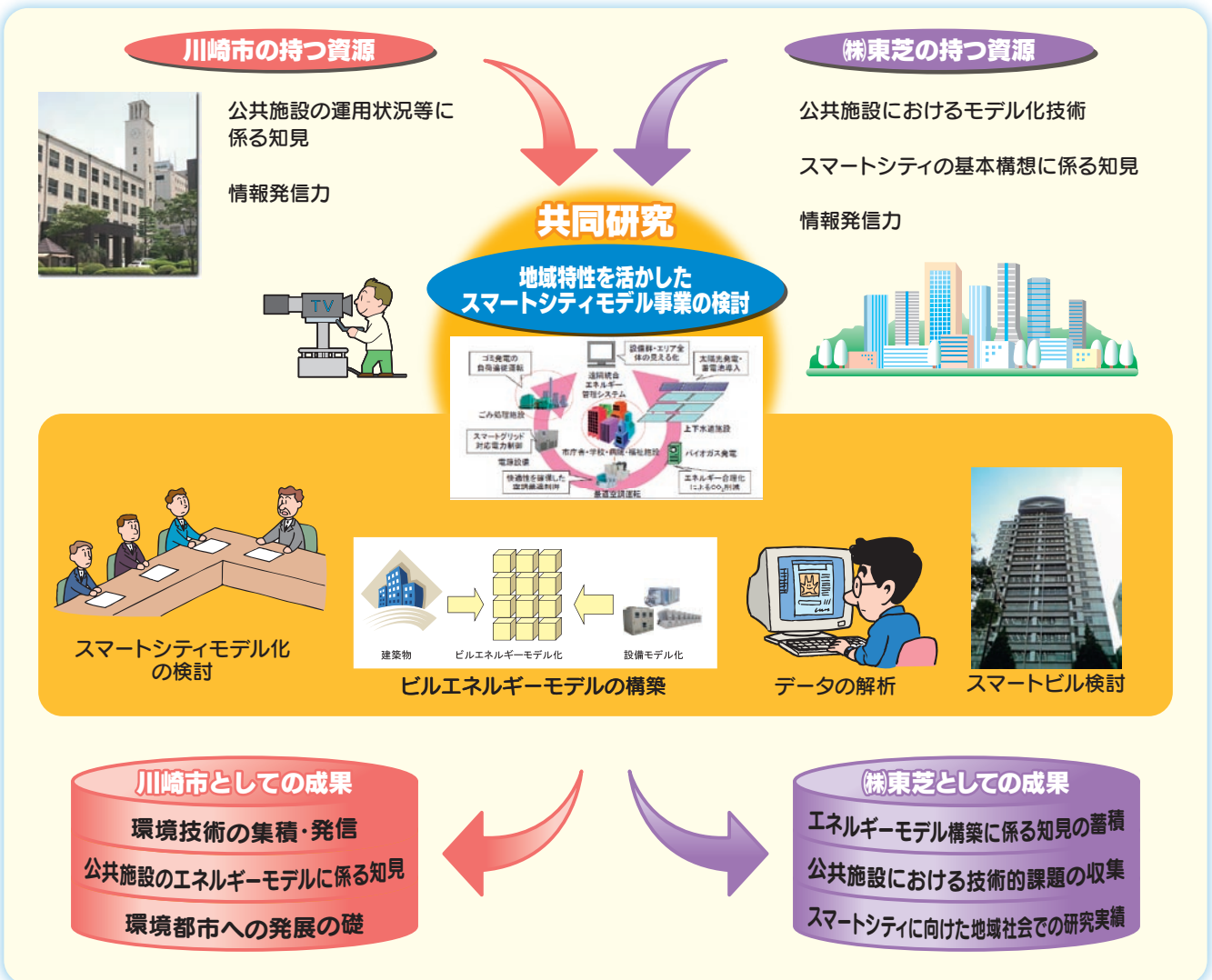
共同研究者・株式会社東芝・川崎市

概要

昨今、様々なインフラのスマート化により、エネルギーを効率的に使用する社会「スマートシティ」の実現に向けた研究が世界的に行われています。本共同研究では、市役所第三庁舎及び浮島処理センター等公共施設におけるエネルギーモデルを実地検証し、スマートシティの実現に向けた事業課題・技術課題等について把握・整理しました。

川崎市は、研究対象施設の運用状況等に係る知見の整理等を、株式会社東芝は、スマートシティモデル化に係る検討、スマートシティの基本構想に係る検討、事業課題・技術課題の分析・整理等を行いました。

研究成果は、将来、川崎市の特性を活かした都市計画において、有益な知見とすることを目指しています。



TOSHIBA
Leading Innovation >>>

株式会社東芝

共同研究を実施した感想

このプロジェクトを通じて、川崎市の環境問題への取り組み・課題が良くわかりました。今後、企業側から環境対策に貢献できる技術を提供しながら、川崎市の行政と密に連携して、スマートシティの早期実現に取り組んでいく所存です。

共同研究者概要

企業名：株式会社東芝
所在地：東京都港区芝浦1-1-1
設立：1875年7月
資本金：4,399億円
活動概要：電気機械器具製造 等



KAWASAKI CITY

川崎市

共同研究を実施した感想

川崎市の所有・管理する施設に対し、東芝の保有する最先端技術によりエネルギーのモデル化を導入し、最新の環境技術や設備を導入した場合の知見が得られました。公共施設を対象とし、スマートシティ構想等の知見の蓄積ができたことは非常に大きな成果でした。今後は、スマートシティの構築に係る技術が地域社会へ水平展開していくことが期待されます。